



連載 レッスンのお悩み、一緒に考えます！

聞いて！まるみえ先生

ぽこあぽこピアノ教室主宰 中西美江

今回のお悩みは…

ワークブック、 どう取り入れたらいい？

みなさまこんにちは！ 今回は、PianoWa♪ オープンチャットで先生方の関心が高かった「ワークブックの効果的な活用法」について、まるみえ先生にお聞きしました！

こんにちは！ ワークブックの活用について、意外にも多くの先生方がお悩みを抱えていらっしゃるんですね。

まず、家庭学習（宿題）とレッスンのどちらでワークを使うべきかというお悩みがありますし、さらに、「他の習いごとや学童などで忙しい生徒さんには与えづらい」「30分という限られたレッスンの中で、ワークの時間をどのように確保すればいいのか」などのお悩みの声がありました。

そこで今回は、家庭学習とレッスン、それぞれのワーク活用法についてお答えいたします。

★ワークを家庭学習として使う場合

私自身は、ワークを家庭学習として使うことはあまり推奨していません。なぜなら、「早く終わらせたい！」と思いながらパパッと書くだけではまったく身につかないと考えているからです。

もしも家庭学習で活用するのであれば、“復習問題”として取り入れます。

[音名を覚えることを重視したワークの場合]

- ・タイムを測る
- ・音を指定する
「ド、ミ、ソの順番で書いてみてね」
- ・音符の種類を指定する
「ドを四分音符、レを二分音符で書いてみてね」
- ・臨時記号を書き加える（声かけ例）
「ファに#を書いて、ソにはbの記号を書いてね」

このように少し負荷を加えることで、生徒さんはより深く考えるようになります。大切なのは問題数ではなく、「問題の質」を高めることです。

★ワークをレッスンの中で使う場合

レッスン内でワークを使う場合は、「理解してほしいこと」にプラスαの課題（負荷）を加えることで、学習効果はさらに高まります。

例えば音名のワークなら、

- ・順番ではなく指定された音名から答える
- ・線の音・間の音を分類する
- ・隣の音との音程差を答える
- ・ワークの音を使って短い曲を作り演奏する

楽語や音楽記号のワークなら、

- ・テキストの曲に記号を書き加えて演奏する
- ・曲の中から楽語や記号を探して意味を書く
- ・楽語や記号を消して自分で書き直す

などが考えられます。

このような課題を通じて、

- ・注意力が高まる
- ・多角的な視点で考えられるようになる
- ・繰り返し活用できる
- ・実践を通して理解が深まる

といった効果が期待できます。

「30分レッスンでは時間が足りない」という声もありますが、

- ・その日のレッスン内容と関連づける
- ・最初の5分だけ使う
- ・時間制限を設ける
- ・ストップウォッチで計測する

などの工夫をすると取り入れやすくなります。

ワークを問題集としてではなく、レッスンの“準備体操”として活用されてはいかがでしょうか？

レッスンにまつわる悩みを
まるみえ先生に相談してみませんか？
右のフォームよりお気軽にお寄せ
ください！

